

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
国際外語・観光・エアライン専門学校		平成3年10月8日		栗林 直子		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通7番町935 (電話) 025-227-6330																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人 国際総合学園		平成3年10月10日		池田 祥護		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通2番町541 (電話) 025-210-8565																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
分化・教養	分化・教養専門課程	国際英語コミュニケーション科				平成30年2月28日 文部科学省告示第32号	-																						
学科の目的	学校教育法に基づき、生徒に対し専門技能及び実生活に必要な能力を育成する。また、文化教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。																												
認定年月日	平成年26年3月31日 文部科学省告示第59号																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2年	昼間	1,836時間	813	983	40	-	-																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
80人		73人	1人	2人	16人	18人																							
学期制度	■前期: 4月1日～7月31日 ■後期: 9月7日～1月29日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席、授業態度、提出物、実習・演習の成果、学期末試験の履修状況を総合的に勘案し、成績評価を行う。また、80%の出席率に達しないものは科目評価を受けることはできない。評価: A(秀)B(優)C(良)D(可)F(不可)																								
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月20日～1月8日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	【進級条件】①1年次の出席が良好であること。(80%以上) ②科目評価が全てD以上であること。③進級に必要なCFPポイントが基準以上であること。④学費、実習費、その他の必要な納入金を全て納入していること。⑤その他、生活行為において問題がないこと。 【卒業条件】①2年次の出席が良好であること。②全年次の科目評価が全てD以上であること。③卒業基準検定を取得していること。④CFPポイントが基準以上であること。⑤学費、実習費、その他の必要な納入金を全て納入していること。⑥その他、生活行為ににおいて問題がないこと。																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学習未達の学生や欠席が多い学生に対し、次の支援を行っている。 ①担任によるカウンセリング体制 ②保護者との連携(電話での状況報告、来校による面談) ③スクールカウンセラーの活用 ④学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施。			課外活動	■課外活動の種類 明和義人祭運営ボランティア、新潟日米協会主催こども英語イベント企画及び運営スタッフ、新潟総踊り運営ボランティア ■サークル活動: 有																								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 航空業界、観光業界、ホテル業界、一般企業、金融、他 ■就職指導内容 業界と職業の知識と理解、業界情報収集と企業研究、就職試験受験のマナー、社会人マナー教育、面接対策、SPI強化、他 ■卒業生数 39 人 ■就職希望者数 37 人 ■就職者数 37 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94.9 % ■その他 ・進学者数 2 人 (進学先) Language International(ドイツ) EG Academy(フィリピン) (令和元年度卒業者に関する 令和2年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TOEIC600点以上</td> <td>③</td> <td>25</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー検定</td> <td>③</td> <td>39</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>Excel表計算処理能力試験</td> <td>③</td> <td>39</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>実用英語検定2級</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第37回 全国専門学校英語スピーチコンテスト Boost Japan賞					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	TOEIC600点以上	③	25	14	社会人常識マナー検定	③	39	35	Excel表計算処理能力試験	③	39	37	実用英語検定2級	③	14	8
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																										
TOEIC600点以上	③	25	14																										
社会人常識マナー検定	③	39	35																										
Excel表計算処理能力試験	③	39	37																										
実用英語検定2級	③	14	8																										
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 1.37 % 平成31年4月1日時点において、在学者73名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者72名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 1)スクールカウンセリングの導入 2)定期的な担任との面談 3)保護者との連携(電話での報告、来校による面談) 4)学科長面談																												

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NSGカレッジリーグ無利子奨学制度(高校新卒・高校新卒以外) 家計の事情のより就学が困難と思われる学生に対し、奨学金を貸与し、卒業後5年以内の返済期間を設けることにより就学の便を図るもの。 ・災害奨学融資制度 災害にあい、学費の準備が困難な方に対して夢を叶える為の進学を応援する制度。 ・母子家庭・父子家庭奨学金制度 母子・父子家庭の事情等により、一年次学費の準備が困難と思われる学生に対し、奨学金を貸与し卒業後の長期の返済により就学の便を図るもの。 ・一人暮らし支援制度 新潟県外、および新潟県内で一人暮らしをされる方を対象に入学後の学費を支援するもの。 ・NSGカレッジリーグ SR制度(Student Recruit) 本校を受験する本人の兄弟姉妹、家庭が本校もしくはNSGカレッジリーグの各校を卒業したか、または在学中である場合、その受験する本人に対して特典を与えるもの。 <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>https://www.air.ac.jp/global</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

社会で活躍できる人材、企業が求める人材を育成するため、職業に必要なスキルを身につけ専門分野における能力を向上させる為、企業や協会が委員として参画し教育課程の編成において企業・協会との密接な連携により、より実践的な職業教育の指導を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業と密接、かつ組織的な連携体制の下、より実践的で専門的なカリキュラム改善を目的とする。また、変わりゆく業界の動向や業界ならではの最新の情報を提供して頂き業界のニーズと現状を取り入れた授業を行うため、教育課程編成委員会を実施を開催する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和 2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
関根 伸春	新潟日米協会 専務理事	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	①
真島 明子	マシマインターナショナル株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育編成委員会(年2回)9月、3月

(開催日時(実績))

第1回 令和元年 9月27日(金) 14:00 ~ 16:00

第2回 令和2年 3月27日(金) 14:00 ~ 16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員からいただいた「一般教養を土台とし、自分たちが生活する社会の問題点や課題などを主体的に考え、問題解決力を養うことも重要であると感じる。そこで、世界基準で物事を考え、問題解決を行うことが期待できる。また、主体性を持って取り組むことを目標に次年度は、世界的に注目を集め、世界中の企業も取り組んでいるSDGsに係わる授業を導入することを提案する。」との意見から、次年度は1年次から「国際関係論」の授業のカリキュラム編成を行い、世界が抱える問題と日本の企業の取組に着眼した学びを取り入れることに決定した。また、実際にSDGsの活動を行っている企業とのコラボレーション授業を検討し、授業に組み込むこととした。

教育編成委員からいただいた「語学ができることで様々な分野で活躍することができる。語学力を活用しての外資系企業、航空業界、観光業界、一般企業と様々であるが、今年度は航空業界に就く学生が多かったと思う。それについて、貴校は「語学」・「観光」・「航空」の専門学校であることから、それぞれの分野のエキスパートがいらっしゃるからこそ、航空や観光の基本的知識を選択授業等で履修してはどうか。」との意見から、「語学」「観光」・「航空」の専門学校として、学生が社会で活用できる知識を習得するために語学以外の「航空実務」「世界遺産から学ぶ日本」、「初級旅行プランニング」、「おもてなし中国語・韓国語」など観光、航空、アジア言語などの授業を選択必修とし、2年次半期の履修科目とした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

語学は学ぶだけでなく実際に活用できることが重要であるため、語学のスキルは実際に社会でどのように業務に活用されているのか、企業との連携により現場での活用を実践的かつ専門的に実習や演習から学ぶ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

後期待される外国人観光客を対象としたガイドとしての知識を深め、スキルを身につける。実際に現場で英語ガイド業務に従事されている企業の下、外国人観光客に説明する際の知識は勿論、英語での表現、英語でのガイドの際のポイントをご教授頂き、学んだ知識、言い回し、英語表現を活用した演習を行う。文化理解を深める座学授業、施設へ出向いた施設見学及び英語での施設ツアーを経て、最終的には学生がガイド演習を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
Express Japanese Cultures in English	伝統的な日本文化の由来や歴史を理解します。また、文化施設に従事している方々の講義を受け実際に文化体験をすることで更なる日本の文化理解を深めます。さらに、英語ガイドの下、施設見学をし表現法を学び演習を行います。	北方文化博物館

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

- ・職員は質と技術の向上を目的に学校が行う教育研修に積極的に参加しなければならない。
- ・職員は学校が行う教育研修等に積極的に参加しなければならない。
- ・職員は学校から外部研修について受講を命ぜられた時は積極的に受講しかつ復命しなければならない。
- ・職員は学校から命ぜられて受講した研修については業務に有効活用しなければならない。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

■ 研修名「2019年度 TOEICセミナー」(連携企業等:国際ビジネスコミュニケーション協会)

期間: 令和元年 8月2日(金) 対象: 学校関係者

内容: 社会のニーズから考えるTOEIC Programの活用

■ 研修名「SDGsにいがた 地域創生プラットフォーム ～新潟の取り組み～」(連携企業等:新潟日報社)

期間: 令和元年12月6日(金) 対象: 一般・学生

内容: 新潟県で現在取り組んでいるSDGsの内容と今後の課題についての講義

② 指導力の修得・向上のための研修等

■ 研修名「学生指導～問題解決～」(連携企業等:北島経営事務所 北島雅之)

期間: 令和元年 8月28日(水) 対象: 学校職員

内容: ①問題解決の重要性 ②問題と課題 ③思考法とツール ④問題検討 ⑤実際の問題解決に取り組む

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

■ 研修名「TOEIC L&R IPテスト(オンライン)活用セミナー」(連携企業等:国際ビジネスコミュニケーション協会)

期間: 令和2年9月18日(金) 14:00～15:00 対象: 学校関係者向け

内容: 活用事例(1)宇都宮大学 活用事例(2)近畿大学

■ 研修名「SDGsにいがた 産学連携での取り組み」(連携企業等:名鉄観光サービス株式会社)

期間: 令和2年9月11日(金) 10:00～11:30 対象: 教員

内容: 企業でのSDGsの取組と学生との連携で、どのような活動ができるかを考える

② 指導力の修得・向上のための研修等

■ 研修名「マネジメントとリーダーシップ」(連携企業等:株式会社アルゴオ 神谷 悟)

期間: 令和2年10月29日(木)～30日(金) 9:30～16:30 対象: 教員

内容: ①環境変化と求められる人材像 ②ロジカルシンキング ③新しいリーダーシップ ④チーム活動の振り返り
⑤職場実践に向けて

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」11項目について自己評価を行い、その自己評価を基に学校関係者評価委員会を設け、評価・意見を受け、改善・向上を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1)教育理念・目標
(2)学校運営	2)学校運営
(3)教育活動	3)教育活動
(4)学修成果	4)学修成果
(5)学生支援	5)学生支援
(6)教育環境	6)教育環境
(7)学生の受け入れ募集	7)学生の受け入れ募集
(8)財務	8)財務
(9)法令等の遵守	9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	11)国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

【委員の意見】

県内、県外、更には国内だけでなく、海外でも多くの卒業生が活躍されている。卒業生のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用してもよいのではないかと。実際に様々な分野で活躍されている卒業生がいらっしゃるのならば、卒業生を招いてのセミナーを開催し、在学生の職業教育に活かしてみてもどうか。

【活用状況】

在校生の職業教育を目的に、就職研修の一環として様々な分野で活躍する多くの卒業生を招いたセミナーを実施することとした。また、卒業生からの意見を取り入れ、時代と共に変わりゆく専門的分野での必要知識等を今後のカリキュラム改善の目的の一つとした。

【委員の意見】

「社会貢献・地域貢献」

・毎年、新潟市、福祉施設、団体からボランティア活動の依頼を頂いているとのことで、学生の学びや関連する専門分野での活躍ができることは学生達にとっても経験と刺激になるであろう。依頼をもらうだけでなく、学校側からのアプローチをしてもよいのではないかと。

【活用状況】

委員より、依頼をもらうだけでなく、学校側からのアプローチをしてもよいのではないかと、との意見を頂いた。社会貢献・地域貢献の考え方として、これまでは実際に学生が出向いての活動で地域、社会貢献を行っていたが、SDGsの取組により、世界について考え学生達が問題解決方法の提案による貢献の仕方もあるとのご意見を頂き、次年度から授業の一つとして全学科で取り組むこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
関根 伸春	新潟日米協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員
山田 智之	一般社団法人 魚沼市観光協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: https://www.air.ac.jp/wp-content/themes/air2017/file/kankei_hyouka_2019.pdf

公表時期: 令和2年 7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における状況提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、教育活動の活性化、学校運営の円滑化、進路選択に当たっての有効な情報の提供、就職指導における企業等との連携の充実、教育内容の改善、学校運営に対する支援の確保、社会に対する理解の増進をねらいとし、必要な教育活動、その他学校運営の状況に関する状況を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校基本情報 - 学校概要、目標
(2) 各学科等の教育	(2) 学科紹介
(3) 教職員	(3) 講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 充実の国際交流・海外留学 / 施設紹介
(6) 学生の生活支援	(6) 学生支援体制
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 入試について - 年間学費・諸費用
(8) 学校の財務	(8) 財務諸表
(9) 学校評価	(9) 学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.air.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 国際英語コミュニケーション科)																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		令和2		企業等との連携	
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	日：令和元年	専任	兼任		
1			○	English Strategy TOEIC730突破	Listening・Readingの模試問題を集中的に学習し、解法を身に付ける。9月のTOEIC公開テストで700点、11月のTOEIC公開テストで800点をを目指す。	1・2通	408		○	△		○	○	○			
				English Strategy TOEIC650突破	聴解、読解の力を身につけるトレーニングをベースに学習する。TOEICを初めて受験する学生から500点の学生を対象に、最終的には650点突破を目指す。												
				English Strategy 英検2級取得	語彙、センテンス、長文から読解法をマスターし、読む、書く、聞く、話すの4技能を習得し2級取得を目指す。												
				English Strategy 英検準2級取得	語彙、センテンス、長文から読解法をマスターし、読む、書く、聞く、話すの4技能を習得し準2級取得を目指す。												
2	○			Grammar I	英語を話す土台を身につけるために文法の基礎を身につける。英文のイメージトレーニングを身につけるために文章の基本的な形を覚える。	1通	68		△	○					○		
3				Intensive English I	スピーキングスキルの向上のため、個々のレベルにあった教材を使用し、集中的に学び能力の向上を目指す。	1通	68			○						○	
4	○			Speaking I	日常会話に必要な挨拶、自己紹介から自分の意見を伝えることができるようになるためフレーズを会話に取り入れ基本的な会話を学びます	1通	68			○						○	
5	○			Cross-culture	世界の観光や歴史文化に触れ、異文化理解を深めます	1通	68		△	○						○	
6	○			Basic Writing & Speech Introduction	文章の書き方の基礎を学び、スピーチを書けるまでの文章力をつけます	1通	17		△	○						○	
7	○			英語表現 I	基本的なフレーズを覚え、文法を基本とした英語の表現法を学び、会話表現を覚えます。	1通	17			○						○	
8	○			Pronunciation I	母音、子音、有声音、無声音の英語の発音の基礎を学び、正しい発音で話せることが目標としています。	1通	34		△	○						○	
9			○	ビジネスメイク I	基本的な身だしなみとしてのメイクの基礎を学びます。また、就職面接に適したメイクの仕方を学びます。	1通	34		△	○						○	
10	○			キャリアアップ I	就職活動の心構えと就職活動の流れを理解します。また、自己分析を行い、自己を知った上で自己PRの作成とエントリーシートを書き方を学びます。	1通	34		○	△						○	

11	○		日本語 I	敬語、謙讓語、尊敬語の使い方や手紙文、メールの返信時などビジネスに必要な正しい日本語を学びます	1 通	34	○	△	○	○									
12	○		PC実習 I	時間内でのタイピング、線の引き方、文字設定の仕方、印刷のかけ方など基本的な作業ができるようになります	1 通	68	△		○	○								○	
13	○		第2外国語 I	中国語・韓国語から1言語選択し、それぞれの言語の基礎を学びます。	1 通	68	○	△		○								○	
14	○		LiberalArt I	非言語、言語分野、SPI、小論文など各カテゴリーを把握し就職試験にも対応できるようになります	1 通	34	○	△		○								○	
15	○		国際関係論	世界の問題に目を向けリサーチをし、ディスカッションをしながら問題解決力を養います。	1 通	34	○	△		○								○	
16	○		Business English	ビジネスに必要な報告書、依頼文、問合せの文書やメールの書き方を学びます。	1 通	34	△	○		○								○	
17	○		English Reading & Writing	様々な小説の内容にストーリー展開を読み解き、要約しライティング力を身に付けます	2 通	68	△	○		○								○	
18	○		Express Japanese Cultures in English	伝統的な日本文化の由来や歴史を理解します。また、文化施設に従事している方々の講義を受け実際に文化体験をすることで更なる日本文化理解を深めます。さらに、英語ガイドの下、施設見学をし表現法を学びます。	2 通	68	△	○		○	○	○	○	○	○				○
19	○		Presentation	スピーチ、デモンストレーション、プレゼンテーションスキルを身に付けます。	2 通	68	△	○		○								○	
20	○		Hospitality	場面や状況に応じた実用的なフレーズをロールプレーを通して学びます。	2 通	34	△	○		○								○	
21	○		Idiom	適切な英語表現やセンテンスを学びながら意味とニュアンスを学びロールプレーで様々な場面で使えるようにします	2 通	34	△	○		○								○	
22	○		英語表現 II	学んだ文法を基に英文読解の力を養い、英語で新しい知識を得ることの喜びを体験します。自らの弱点を認識し、総合的な学習成果を得る為に復習を行います。また、個別に指導を受けることが出来る時間です。	2 通	34	△	○		○								○	
23	○		Speaking II	状況に合わせての質問、依頼、提案などビジネスで使えるようになるためのフレーズを学びます	2 通	68	△	○		○								○	
24	○		キャリアアップ II	企業研究や履歴書の書き方、面接試験対策を行う。また企業訪問や面接でのマナーをも学びます。	2 通	34	△	○		○								○	
25	○		日本語 II	依頼文、問い合わせなど、提案などビジネスで使う正しい日本語表現を学ぶ。	2 通	34	○	△		○								○	
26	○		第2外国語 II	一年次に選択した中国語・韓国語のうちの1言語を継続し、日常会話レベルまでを学習します。	2 通	68	○	△		○								○	

27	○		Pronunciation II	母音、子音、有声音、無声音の英語の発音の基礎を学び、正しい発音で話せることが目標としています。	2通	34	△	○	○	○								
28		○	ビジネスメイク II	社会に必要な基本的ビジネスマナーを学び、ロールプレーを通してマナーを習得します。	2通	34	△	○	○	○								
29	○		LiberalArt II	一般教養（地理、歴史、数学、四字熟語）など幅広い分野において知識を身に付けます	2通	34	○	△	○	○								
30	○		日本文化研究	日本の文化について深く知り、世界から見た日本を英語で伝えられるようにする	2通	34	○	△	○	○								
31			Intensive English II	1年次に引き続き、スピーキングスキルの向上のため、個々のレベルにあった教材を使用し、集中的に学び能力の向上を目指す。	2通	68			○	○								
32 (※)	○		おもてなし韓国語	講師の講義形式の授業後、グループワークやペアワークで学んだフレーズを練習する。発音を重視し練習を行う。飲食業・販売業・レジャー施設・案内などの接客業を想定した韓国語フレーズを学ぶ。	2後	17	△	○	○	○								
			おもてなし中国語	ビジネス場面において使う中国語の習得と会話中心に場面別ロールプレーを中国人留学生と行い、実際に通じる中国語を身につける。														
			Presentation English	英語でのプレゼンテーションに必要なプレゼンの際のジェスチャー、アイコンタクト、声のトーンなど、基本的知識を身につける。														
33 (※)	○		航空実務	航空業界に必要な基礎知識を始め、航空業界で働く人に必要な基礎的専門知識を学ぶ。（専門用語・スリーレターコード）など空港ハンドリングや出入国などの知識も習得する。	2後	17	△	○	○	○								
			手話初級	基本的な手話表現ができる（あいさつ、自己紹介、趣味について相手に尋ねたり答えたりすることができる。そのうえでの簡単な手話での接客をロールプレーを通して身につける。														
			世界遺産から学ぶ日本語	世界遺産とは何か、何のために登録するのか、どのような分類分けをされているのかを知り、日本各地にある世界遺産を学習していきます。どうして世界遺産登録を受けたかその理由、そしてその歴史や時代背景、周辺地区などを学ぶ。														
			初級旅行プランニング	JR、飛行機、バス、タクシーなど様々な交通手段を用いたのプランニングの方法を学習する。観光地、ホテル、レストラン、買い物店など情報の集め方などの調べ学習のちに、点を線で結び、オリジナルプランを作成する。														
合計			33 科目			1,836 単位時間(単位)												

上述科目の内、

32(※) 選択必修のため、1科目履修

33(※) 選択必修のため、1科目履修

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1) 進級時及び卒年次の出席が80%以上であること。	1学年の学期区分	2 期
2) 科目評価が全てD以上であること。		
3) 進級時及び卒年次に必要なCFPポイントが取得してあること。	1学期の授業期間	17週
4) 卒業に必要な検定を取得してあること。		
5) 授業料が完納してあること。		

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。